

## 口腔粘膜疾患

大分大学医学部歯科口腔外科学講座  
助教 阿部史佳



### はじめに

びらん・潰瘍を主徴とする口腔粘膜疾患には、ウイルス感染によるもの、薬剤によるもの、自己免疫疾患などいろいろな疾患が含まれています。これらの疾患の臨床像は似通っていますが原因が違うので、当然ながら治療法がまるで異なっています。普通の口内炎と考えて、漫然とステロイド軟膏を使用していると、症状は改善しないばかりか悪化することさえあります。適切な治療を行うためには、正しい知識・診断が必要です。

今回は、びらん・潰瘍を主徴とする口腔粘膜疾患から、あまり注意が払われずに見落としている可能性のある疾患、最近報告が増えている疾患などについて解説します。

### 1. 多形滲出性紅斑

この疾患は口腔内全体に発赤を生じ、舌、頬粘膜、口唇などに多数のびらん・潰瘍を形成するのが特徴です。びらん・潰瘍は比較的大きく、不規則な形態のものが多いとされています。原因として、薬剤（NSAIDsや抗菌薬など）、単純ヘルペスウイルスやマイコプラズマなどの感染、免疫不全、食品添加物などが挙げられます。図1は当科で経験した多形滲出性紅斑で、抗菌薬（ミノマイシン）が原因として疑われた症例です。舌、頬粘膜に発赤と多数のびらん形成を認めます。

多形滲出性紅斑は、日本では目にする機会は比較的少ないのですが、私が留学していたカリフォルニア大学サンフランシスコ校（UCSF）口腔内科の外来では、毎週のように患者が来院していました。症状が軽いものは、ほとんどが数週間で自然治癒するため、日本では見落とされている可能性があります。

治療はプレドニゾロンの連日投与方法（初回投与量 40 mg/日から漸減していく方法）が有効であり、この疾患が疑われる場合は速やかに専門医療機関へ患者を送ることが必要です。図1の症例もプレドニゾロンの内服で治癒しました。

なお多形滲出性紅斑の重症例は、ステーブンス・ジョンソン症候群や中毒性表皮壊死症と呼ばれ、全身の皮膚、粘膜に潰瘍を形成します。これらの疾患は、治療が遅れると致命的です。

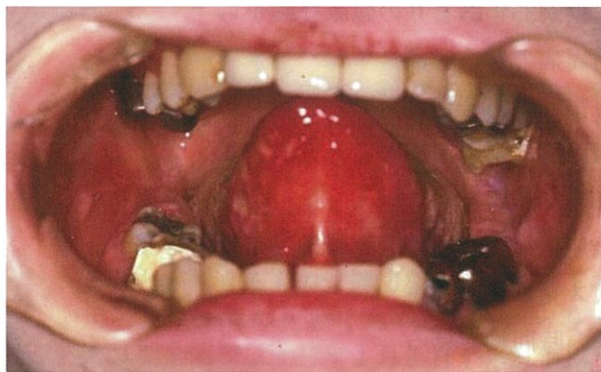


図1 ミノマイシンにより生じた多形滲出性紅斑  
舌、頬粘膜の発赤と多数のびらん形成を認める。ミノマイシンの中止とプレドニゾロン内服にて治癒した。

### 2. ニコランジル誘発性潰瘍

抗狭心症薬であるニコランジル（商品名：シグマート）による口腔潰瘍の報告が、本邦では2010年頃から増加しています。ニコランジルは日本で合成・開発された薬剤で、口腔潰瘍合併の頻度はインタビューフォームによると3%以上と報告されています。

図2は当科で経験したニコランジル誘発性潰瘍で、右舌縁部に大きな潰瘍を認めます。ニコランジル誘発性潰瘍は口腔粘膜、主に舌に1個もしくは数個の潰瘍を生じます。肉眼所見からは機械的刺激による褥瘡性潰瘍と区別することが難しく、この疾患を知らなければ診断を付けることが困難です。

治療はニコランジルの中止と口腔内保清です。難治性の口腔潰瘍を認めた時は、歯牙鋭



縁などの刺激源がないか、癌性潰瘍の可能性はないか、長期のステロイド軟膏使用による真菌感染はないか、ウイルス感染の所見はないか、潰瘍形成を生じる全身疾患がないかを確認し、これらがいずれも当てはまらない場合は患者の内服薬をチェックしてください。ニコランジルの内服がある時は、処方医と相談の上で薬剤の変更や中止を検討する必要があります。図 2 の症例では、前医で処方されていたステロイド軟膏では改善がありませんでしたが、ニコランジル中止により約 4 週間後に潰瘍は消失しました。



図 2 ニコランジル誘発性潰瘍  
初診時、右舌縁部に潰瘍を認めた（左図）。ニコランジルを中止したところ約 4 週間後に潰瘍は消失した（右図）。

### 3. 単純ヘルペスウイルス再活性化による口腔疾患

単純ヘルペスウイルス (HSV) は主に幼少時に初感染を生じますが、ほとんどの場合は無症状で、歯肉口内炎を生じるものはわずか数%です。初感染後、症状が消失した後もウイルスは神経節内にとどまり、大人になって体調が悪い時や免疫力が低下した時に、再発（再活性化）を起こすことが特徴です。再発時の症状は、多くが口唇に見られますが（口唇ヘルペス）、稀に口蓋や歯肉縁にも水疱、びらんを生じます。

図 3 は 91 歳男性の口蓋粘膜にび慢性に生じたびらんです。ウイルス感染を疑い、HSV、水痘帯状疱疹ウイルス (VZV)、Epstein-Barr ウイルス (EBV) の抗体価を検査したところ HSV 抗体が高値を示し、HSV 感染の再活性化と診断しました。

口腔粘膜のウイルス感染は水疱形成として出現しますが、水疱はすぐに破れるため、受診時にはびらん・潰瘍に変化しています。治療は抗ウイルス薬の軟膏塗布もしくは内服と口腔内保清です。通常、10 日ほどで治癒します。

ウイルス性疾患にはステロイド軟膏塗布は禁忌ですから、診断が確定するまでは含嗽剤処方やステロイドなどを含まない軟膏塗布に留める必要があります。HSV の再活性化が口唇以外に出現することは稀ですので、図 3 のような症例は慎重に診断を行うことが大切です。



図 3 単純ヘルペスウイルス再活性化による口蓋粘膜のびらん 血液検査にて HSV 抗体価が高値を示した。

### おわりに

口腔粘膜疾患では、正確に診断を行い、原因に基づく治療を選択することが大切です。診断法や治療方法についての新しい知識が必要になるため、疾患についての情報を常にアップデートしていくことが重要です。